

8-8 パナンペペナンペ

「アッケテク ホプニ」

帆立貝、飛んだ

語り：平賀さだも

ペナンペ アン パナンペ アニネ シラニケ

Penanpe an Pananpe an h_ine siran h_ike

ペナンペ（川上の者）とパナンペ（川下の者）がいました。

パナンペ ピシ タ サン アクス

Pananpe pis ta san akusu

パナンペが海辺へ下って行くと、

アッケテク シネプ ヤニネ アン。でない。クスンケ ハウエ ネ。

akketek sinep yan h_ine an. DENAI. ku=sunke hawe ne.

ホタテが1枚寄り上がっていました。（本当）でない。（今）私は嘘を言った。^[2]

フンペ ヤニネ アン。エヤイコブンテク。

hunpe yan h_ine an. eyaykopuntek.

クジラが寄り上がっていたので（パナンペは）喜びました。

インカラ アクス ネ オロ オ プ カ イサム。

inkar akusu ne or o p ka isam.

見ると何も入れる物がありませんでした。

インカラクス アッケテク シネプ ヤニネ アニ クス

inkar akusu akketek sinep yan h_ine an h_i kusu

見てみると1枚のホタテも寄り上がっていたので、

ネア アッケテク オルン フンペ チャ ア チャ ア アイネ

nea akketek or un hunpe ca a ca a ayne

ホタテの中へクジラ（の肉）を切り取り

イキリ カラ カラ ヒネ

ikir kar a kar a hine

(肉の) 山を作り、

オラウン カシ タ アシ ヒネ

oraun kasi ta as hine

ホタテの上に立って

「アッケテク ホプニ ホプニ、アッケテク ホプニ ホプニ」

“akketek hopuni hopuni, akketek hopuni hopuni”

「ホタテ飛べ飛べ、ホタテ飛べ飛べ」

セコロ カネ ハウエアナクス .

sekor kane hawean akusu .

とそうのように言うと、

ネ アッケテク ホプニ ヒネ エキネ ウニ タ トウルセ ヒネ

ne akketek hopuni hine ek h_inine uni ta turse hine

そのホタテは飛んで来て、(パナンペの) 家へ降りて、

エアラキンネ エピリカ コロ アン ルウエ ネ アクス

earkinne epirka kor an ruwe ne akusu

そこでとても裕福に暮らしていました。

オロ タ ペナンペ サン ヒネ

oro ta Penanpe san hine

そこにペナンペが下ってきて、

「イトウラ ウエン クル エネ ア プ、

“i=tura wen kur e=ne a p,

「私と一緒にの貧乏人だったのに、

マケイキ イネ エニシパネ ルウエ アン？」

mak e=iki h_inine e=nispane ruwe an?”

どうやってお前は金持ちになったのだ」

セコロ カネ ハウエアナクス、パナンペ
sekor kane hawean akusu, Pananpe
と言いました。パナンペが

「エク。イペ コロ アエパシクマ ナ」
“**ek. ipe kor a=epaskuma na**”
「来いよ。食べながら教えてやろう」

セコロ カネ ハウエアナクス
sekor kane hawean akusu
と言うと、

「ホシキ サン…… ホシキ タシ チヌ ロク ペ」
“**hoski san... hoski tas ci=nu rok pe**”
(ペナンペは)「俺が先に知っていたものだ」

セコロ ハウエアン コロ アパ サムン クチツ テク コロ ソイネ
sekor hawean kor apa sam un kucir_ tek kor soyne
と言いながら、戸口にさっと小便をかけて出て行った。

ヘマンタ ネ エネ アネ(?) クチラウエ ネ コロ チソイエカッタ ヒネ イサム。
hemanta ne ene ane(?) kucir h_awe ne kor cisoyekatta hine isam.
なんだってそんなふうに小便をかけた話なのか、(ペナンペは)外へ飛び出して行っていった。

コント ピシ タ サン。
konto pis ta san.
今度、浜へ下った。

ペナンペ ピシ タ サン アクス フンペ ヤニネ、
Penanpe pis ta san akusu hunpe yan h_ine,
ペナンペが海辺へ下るとクジラが寄り上がっていた。

アッケテク ヘム ヤニ ネ アニ クス
akketek hem yan h_i ne an h_i kusu
ホタテも寄り上がっていたので、

「アッケテク ハサ」

“akketek hasa”

「ホタテよ口を開け」

セコロ カネ ハウエアナクス

sekor kane hawean akusu

と言うと

アッケテク ハサ イ クス オロ ウン フンペ チャ ア チャ ア ヒネ

atketek hasa h_i kusu oro un hunpe ca a ca a hine

ホタテが口を開いたので、そこへクジラ（の肉）を切り取り、たくさん集めて、

「オロ エシクテ ポロンノ タシ エオマレ ヤクネ

“oro esikte poronno tas e=omare yakne

「それいっぱい、たくさん入れたなら、

ポロンノ エエピリカ ネク」

poronno e=epirka nek”

たいそう裕福になるぞ」

クス ヤイヌ クシ ポロンノ オマレ ヒネ オラウン カシ タ アシネ、

kusu yaynu kus poronno omare hine oraun kasi ta as h_inine,

と思って、たくさん入れて、その上に立った。

トゥナシノ ウニ ウン アラパ ルスイ ペ ネ クス

tunasno uni un arpa rusuy pe ne kusu

早く家へ行きたいと思った者であったので、

「アッケテク ホプニ ホプニ、アッケテク ホプニ ホプニ、

“akketek hopuni hopuni, akketek hopuni hopuni,

「ホタテ飛べ飛べ、ホタテ飛べ飛べ、

アッケテク ホプニ ホプニ」

akketek hopuni hopuni.”

ホタテ飛べ飛べ」

セコロ ハウエアナクス、
sekor hawean akusu,
と言うと、

トオペリカシ ホプニ ヒネ
toop h_erikasi hopuni hine
遙か上のほうに飛んで、

オロワノ トオプ ニタイ エンカ ペカ ホプニ ヒネ アラパ ヒネ、
orowano toop nitay enka peka hopuni hine arpa hine,
それからずうっと林の上などを飛んで行って、

トオプ キム タ アラパ コロ アラホリカシ トウルセ ヒネ
toop kim ta arpa kor arhorikasi turse hine
ずうっと山の方へ飛んで行き、すごく高いところから落っこちて

トウルセ アッケテク カ テレケ ヒネ イサム ペ ネ クス
turse akketek ka terke hine isam pe ne kusu
落ちたホタテも飛んで行ってしまったので、

トゥ ライ ウェン ライ キ クス
tu ray wen ray ki kusu
ひどい死に方、悪い死に方をしたので、

イテキ イテキ エイタサ イコン ルスイ
iteki iteki eytasa ikor_rusuy
あんまりものを欲しがったりしてはいけません。

ペ カ ポロンノ ネプ カ アコロ クス ネ。
pe ka poronno nep ka a=kor kusu ne.
(そういう)ものは、何かたくさんもらうことになりますよ^[3]。

ニサプノ ニシパ アネ クス ネ セコロ イテキ ヤイヌ プ ネ。
nisapno nispa a=ne kusu ne sekor iteki yaynu p ne.
にわかになろうと思っではいけません。

【注】

- [1] 聞きおこしにあたって、類話である早稲田大学語学教育研究所『音声資料3』（20～21ページ）を参考にした。ただし、語り手も同じであるが、語っている文言は同じではない。
- [2] 間違って語ってしまったという、語り手自身によることば。
- [3] 「何かたくさんもらうことになりますよ」というのは反語的表現で、「何も手に入りませんよ」ということを言っている。このような本当の意味とは反対のことをわざということが、アイヌ語の表現には多い。